

## 第2編 上野Ⅱ遺跡



## 第1章 既往の調査

これまで上野Ⅱ遺跡では、昭和62年に長野原町教育委員会によって詳細分布調査が行われたのみで、本調査は今回が最初の発掘調査事例である。その後、今回の横壁土地改良事業に伴い試掘調査が行われた。その結果、焼土を作り住居跡や陥し穴、鉄轍など平安時代の遺物が出土し、本調査が行われることとなった。

## 第2章 調査の経過

上野Ⅱ遺跡の発掘調査は、平成30年7月11日から同年12月28日まで実施した。調査区外に排土置場を確保できないため調査区を南部、中部、北部に三分割した。また調査区内を駐車場や上野Ⅰ遺跡への進入路として使用していたため、さらに細分して調査を実施した（第74図）。

7月11日、北部（北端）の表土掘削を開始する。7月26日、中部（南）の表土掘削を開始する。

8月21日、北部の遺構掘削を開始する。8月28日、S101の掘削を開始する。

9月3日、北部の空中写真撮影を実施する。9月5日、中部の遺構掘削を開始する。9月14日、南部（南）の表土掘削を開始する。9月26日、中部（南）の空中写真撮影を実施する。駐車場を移転する。9月27日、南部の遺構掘削を開始する。

10月2日、進入路の付け替えを行う。10月12日、S101の掘削を開始する。10月17日、北部（道下）・中部（小屋前）の空中写真撮影を実施する。10月19日、南部（北端）の空中写真撮影を実施する。

11月7日、南部（北西）の空中写真撮影を実施する。11月13日、埋没谷1面の空中写真撮影を実施する。11月17日、現地説明会を行う。11月27日、S102・S102のテフラサンプルを採取する。

12月6日、南部の空中写真撮影を実施する。12月13日、埋没谷2面の空中写真撮影を実施する。12月18日、中部（北端）の空中写真撮影を実施する。12月21日、埋没谷3面の空中写真撮影を実施する。12月26日、中部の空中写真撮影を実施する。12月28日、遺構掘削が完了し、上野Ⅱ遺跡の調査が終了した。

## 第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本土層はA地点（南部東壁）・B地点（北部西壁）の2か所で確認した。基本層序は以下の通りである。

第I<sub>1</sub>層 黒褐色土：表土である。粘性は弱く、しまりはやや弱い。砂礫（ $\phi$  0.1～1.0cm）を微量含む。

第I<sub>2</sub>層 黒褐色土：表土である。粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（ $\phi$  0.1～0.5cm）を微量含む。埋没谷上のA地点でのみ確認された。

第II層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（ $\phi$  0.1～1.0cm）を微量含む。

第III層 暗褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（ $\phi$  0.1～1.5cm）を微量含む。

第IV層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（ $\phi$  0.1～0.5cm）を微量含む。

第V層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（ $\phi$  0.1～1.0cm）・As-Kk（ $\phi$  0.1～3.5cm）を微量含む。試掘47～55号トレンチの8層に相当する。

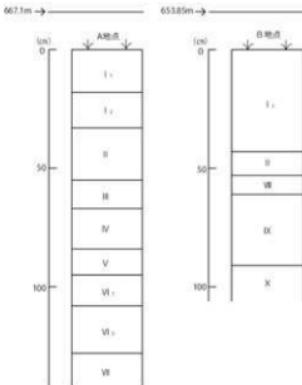
第VI<sub>1</sub>層 暗褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。ローム粒（ $\phi$  0.1～0.4cm）・YPk（ $\phi$  0.1～1.5cm）を微量含む。試掘47～55号トレンチの11層を細分したものである。

第VI<sub>2</sub>層 暗褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk（ $\phi$  0.1～1.5cm）を微量含む。試掘47～55号トレンチの11層を細分したものである。



第70図 調査区位置図(1/2,500)

- 第VII層 黒褐色土：粘性は弱く、しまりはやや弱い。YPk ( $\phi$  0.1 ~ 0.5cm) を微量含む。
- 第VI層 黒褐色土：粘性・しまりともに弱い。YPk ( $\phi$  0.1 ~ 0.4cm) を微量含む。
- 第V层 にぶい黄褐色土：粘性・しまりともに弱い。ロームブロック ( $\phi$  0.5 ~ 5.0cm) を含み、YPk ( $\phi$  0.1 ~ 0.4cm) を微量含む。試掘 47 ~ 55号トレンチの12層に相当する。
- 第X層 黄褐色土：ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。

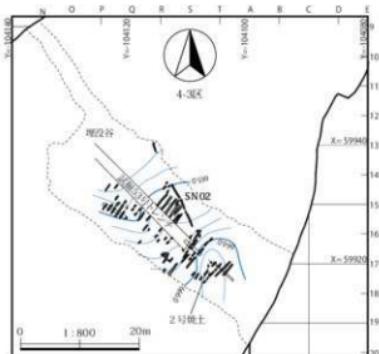


第71図 基本土層柱状図(1/20)

## 第4章 検出された遺構と遺物

### 第1節 遺跡の概要

本遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字上野に所在する縄文時代中期の集落跡、平安時代の集落跡を主体とする複合遺跡である。吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面の南方の、丸岩山の北西面の山脚地帯に位置する。吾妻川支流の東沢の中流の左岸に位置する尾根



第72図 調査区全体図1面目(1/800)



第73図 調査区全体図3面目(1/800)

上野日遺跡

上に立地する。尾根の西側を東沢の支流であるかばら沢が流れている。遺跡のある尾根は、丸岩から北東に向かって伸びており、丸岩山の山脚のうち比較的幅広い。この尾根上には、南北の上下二段に分かれる緩斜面があり、本遺跡は北側下段の緩斜面に立地する。後背緩斜面には上野I遺跡がある。南から北へ向かって下る傾斜地で、標高は648.4 m～672.0 mである。現況は畠地である。

今回の発掘調査は上野II遺跡の第1次調査にあたる。遺跡の南端部に一段高い、東西に長い台地があり、台地上の中央から西寄りが幅約20 mの平坦面となっている。台地の目の前の東半分に約30 m四方の方形平坦面が広がる。この方形平坦面の南半部には埋没谷が南東から北西に向かって幅約10～15 mで帯状に存在し、埋没谷上は帯状に窪地となっている。方形平坦面から北東方向に緩斜面が舌状に広がる。緩斜面の西側は、さらに低くなっている、同じく緩斜面が帯状に北東方向に伸びている。舌状緩斜面と帯状緩斜面の境界には埋没谷が北西方向に伸びており、その北部は現在も埋没している。

今回の発掘調査で確認された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡2軒、土坑7基、埋甕1基、遺物集中2カ所、弥生時代の土坑1基、平安時代の竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡1棟、カマド屋1軒、陥し穴88基、土坑6基、烟2面、焼土遺構4基、ピット37基、中世の陥し穴9基、焼土遺構6基、時期不明の竪穴状遺構2基（建て替え1基を含む）、土坑46基、石匂遺構1基、溝23条、烟1面、ピット20基である。SK44・45・55・66・72、P40・57・58、1号・4号・5号・6号焼土は、当初遺構として調査を行なったが、後に遺構ではないと判断したため欠番とした。出土遺物の種類は、縄文土器、弥生土器、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、石器などで、その数量はテンバコで6箱分であった。

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

### (1) 竪穴住居跡

SI04（第75～77図／第14・22・24表／PL 9・10・18）

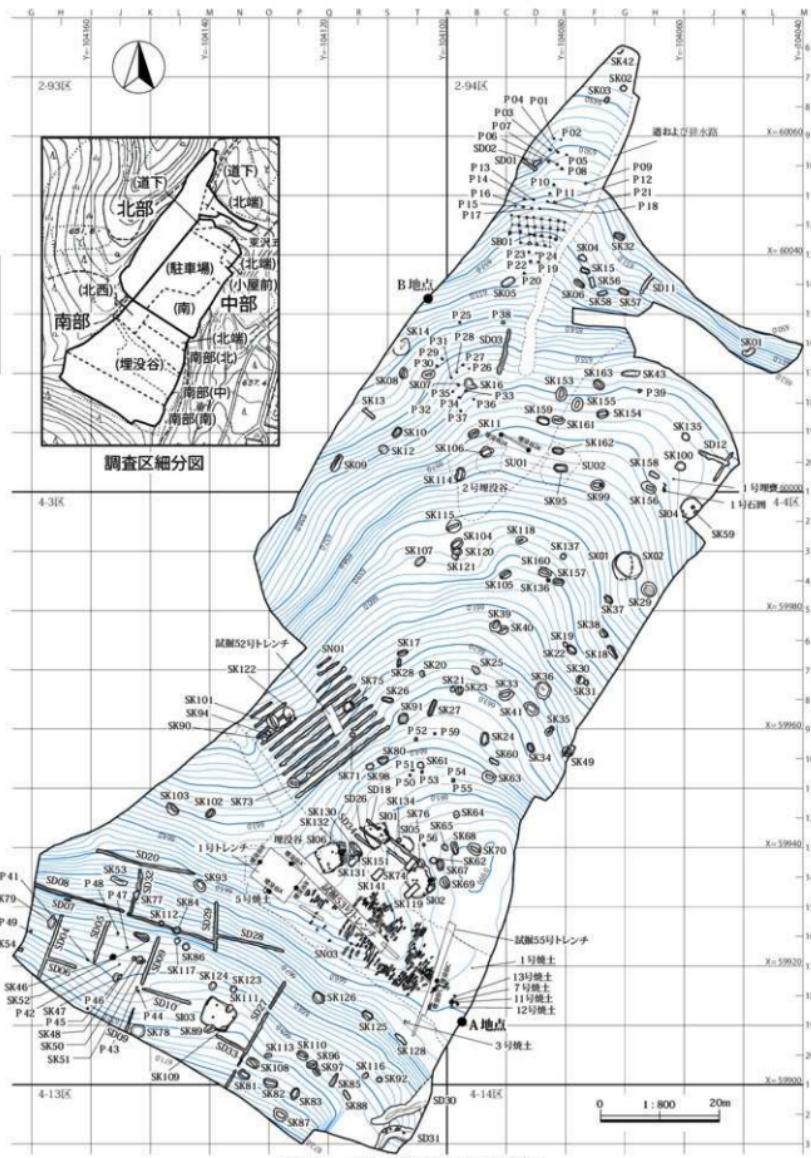
位置 4-4区/I-1 重複関係 SK59と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 南東側は調査区外であるが概ね良好である。覆土 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。平面形と規模 残存部は円形を呈する。規模

は主軸3.53 m、副軸3 m以上、深さ13 cm、床面積8.07 m<sup>2</sup>。主軸方位 N-35°-E 壁・壁溝 壁高は北壁7 cm、南壁12 cm、西壁13 cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。床面 直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。南西側で敷石が確認された。柱穴 P1・P2の2基が掘り方で確認さ

第14表 SI04 ピット計測表

	P1	P2
長軸長(cm)	26	28
短軸長(cm)	23	18
深さ(cm)	42	30



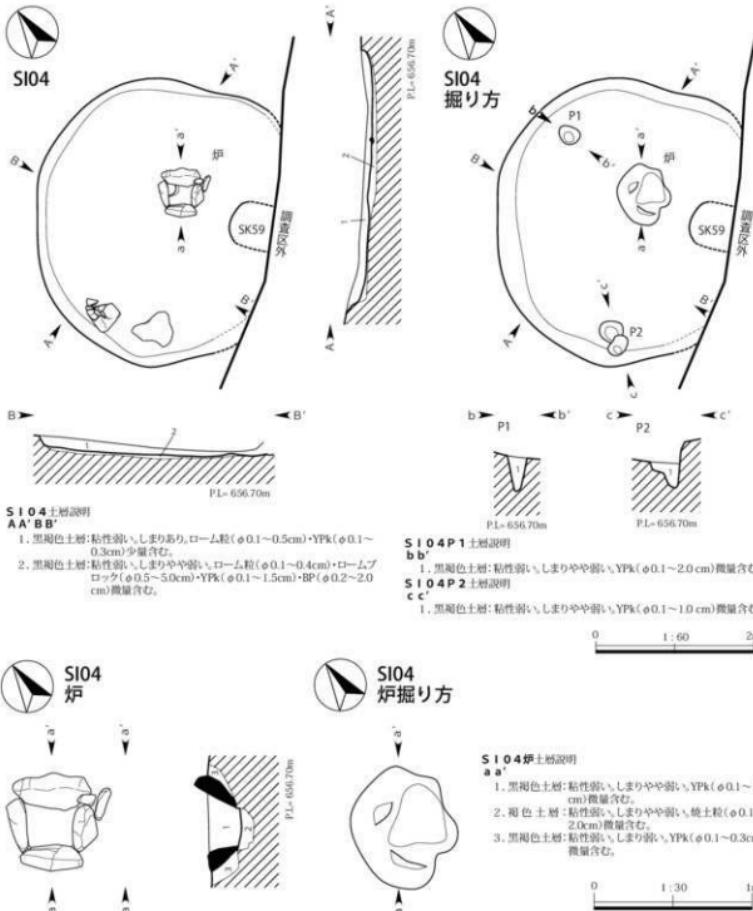
第74図 調査区全体図 2面目 (1/800)

れた。いずれも平面形は橢円形で規模は小さい。それぞれの規模は第14表に記した。 炉 住居の中央からやや北東寄りに位置する。平面形は方形で、規模は長軸62cm、短軸55cm、深さ28cm。床面を不整形に掘り込み、4枚の扁平な板石を用いている。南側が開く構成をしていたと見られる。 その他の施設 柄に当たる掘り込みや敷石は見られなかった。

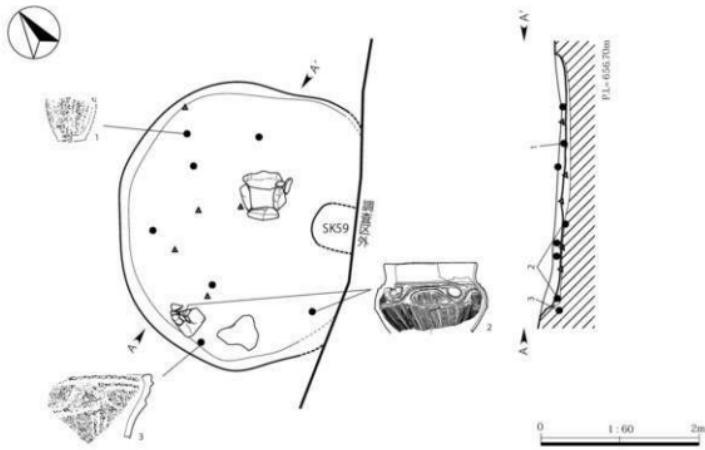
**遺物出土状況** 繩文土器片が7点、土師器片7点、石礫・磨石などの石製品11点、須恵器片が1点、黒曜石のチップが5点出土した。

**遺物** 加曾利EⅢ式と考えられる繩文土器3点、黒曜石の石礫1点を図示した。

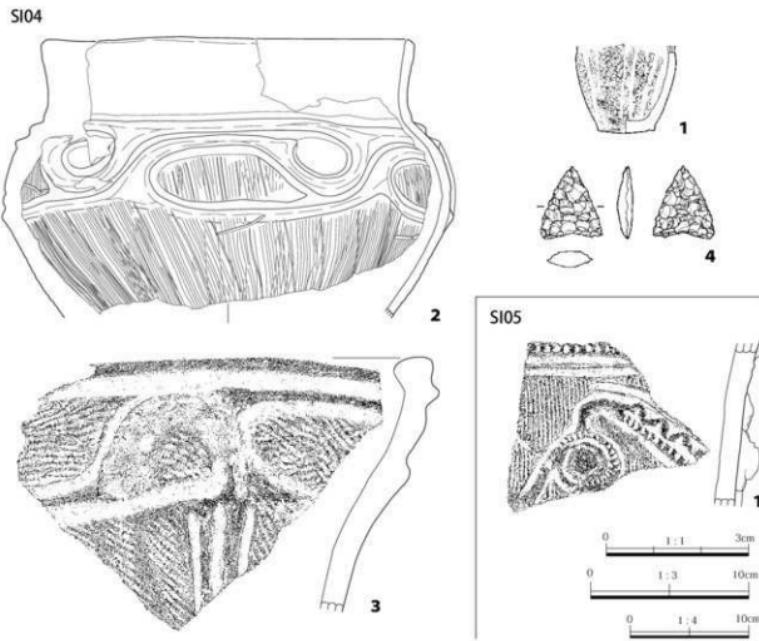
**備考** 本遺構は小型の竪穴住居跡である。敷石住居としては柄を持たない初期段階の住居と考えられる。帰属時期は、出土遺物から繩文時代中期後半(加曾利E期式)と考えられる。



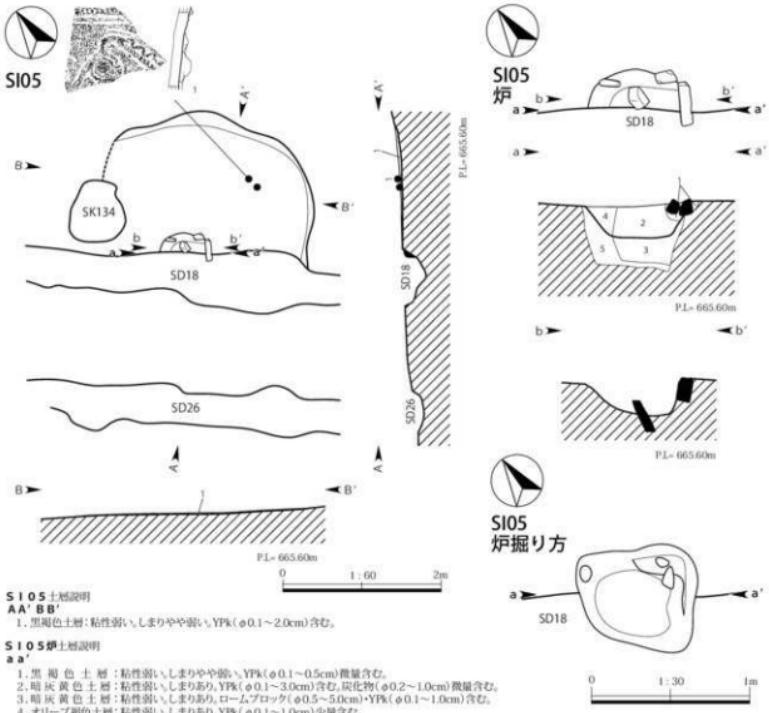
第75図 SI04・掘り方実測図(1/60)・炉・炉掘り方実測図(1/30)



第76図 SI04遺物出土状況図(1/60)



第77図 SI04-05出土遺物実測図(1/1・1/3・1/4)

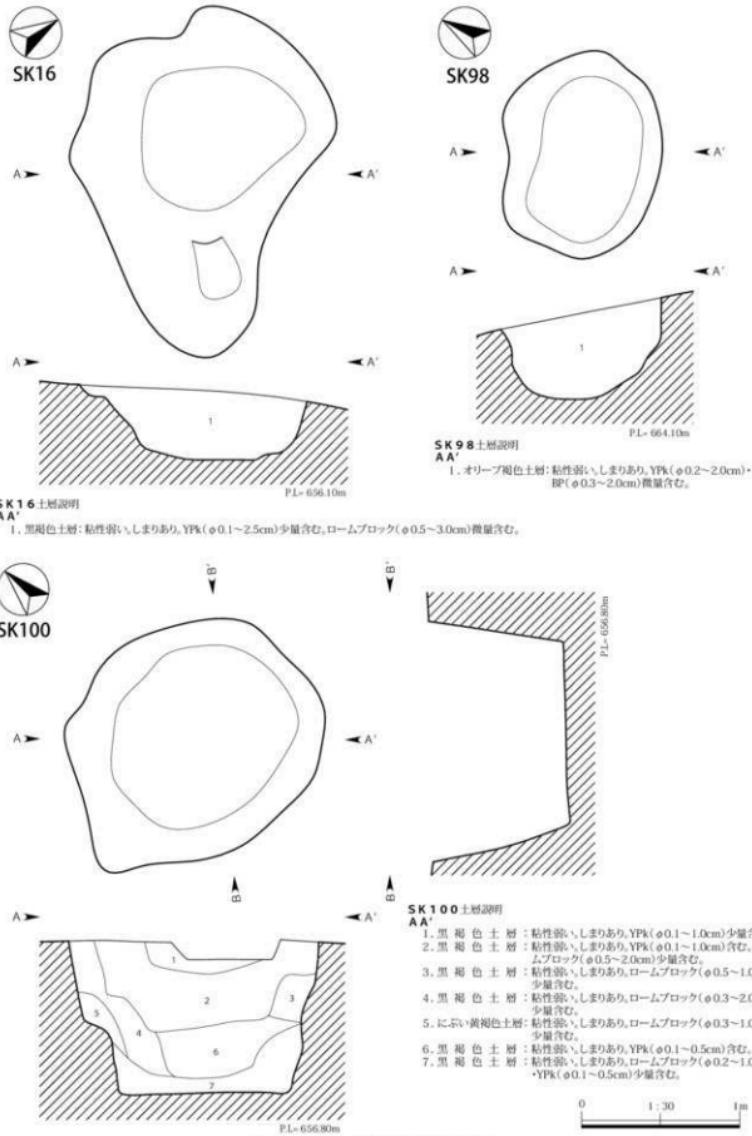


第78図 SI05実測図(1/60)・炉・炉掘り方実測図(1/30)

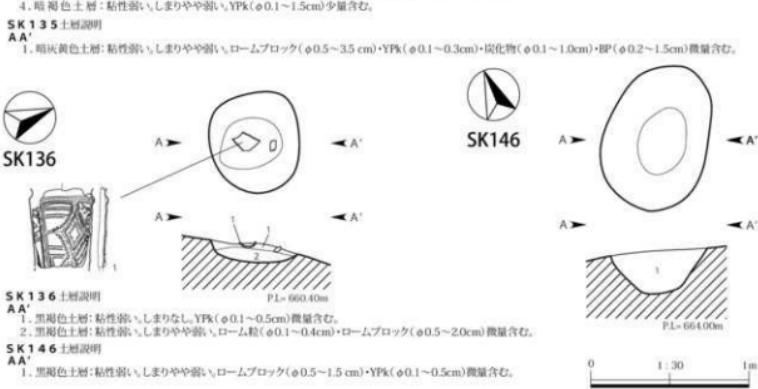
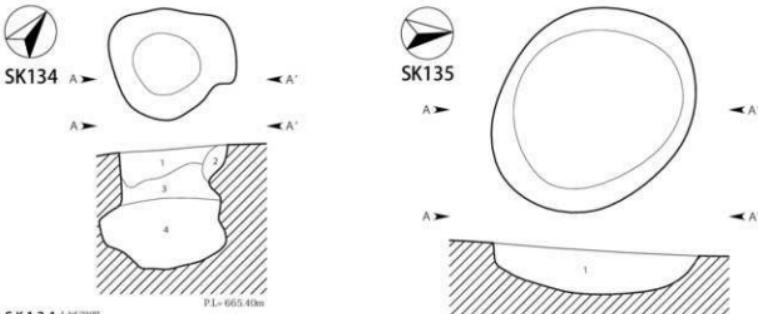
SI05 (第77・78図/第22・24表/P L 10・18)

**位置** 4-3区S-12 重複関係 SD18と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上部のほとんどが削平されており、西・南側は現存しない。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 隅丸方形を呈する。規模は主軸 1.78 m以上、副軸 2.65 m以上、深さ 4cm、床面積 3.68 m<sup>2</sup>。 **主軸方位** N-45°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁 4cm、東壁 2cm。上部が削平されているため、壁の立ち上がりはほとんど残っていなかった。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。

**柱穴** 確認されなかった。 **炉** 住居跡のほぼ中央に位置する。平面形は方形で、規模は長軸 64cm、短軸 24 cm以上、深さ 20cm。SD18によって一部壊されている。炉内に明確な火床面は見られなかった。板状石は東・北側にのみ残っており、炉内に板状石が落ち込んでいる。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 中央やや南寄りの位置で縄文土器片 2点が出土した。 **遺物** 出土遺物のうち、勝坂式と考えられる縄文土器片 1点を図示した。 **備考** 本遺構は小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（勝坂式期）と考えられる。



第79図 SK16・98・100実測図(1/30)



第80図 SK134~136・146実測図(1/30)

## (2) 土坑

SK16 (第79図)

位置 2-94区A-17 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。

平面形と規模 不整椭円形を呈する。規模は長軸168cm、短軸140cm、深さ43cm。 主軸方位 N-11°-E 壁面 外傾して立ち上がる。南東壁が広がる。 底面 概ね平坦。 遺物 繩文土器片11点が出土したが、小破片のため図示しなかった。 備考 出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。

SK98 (第79図)

位置 4-3区R-10 重複関係 なし。 遺存状態 良好。 覆土 オリーブ褐色土が基調で、人為堆積を示す。 平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸132cm、短軸106cm、深さ54cm。 主軸方位 N-66°-E 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 中央に向かって緩やかに傾斜する。 遺物 なし。 備考 繩文土器は出土していないが、SI04・05など縄文時代の遺構の覆土と類似する覆土で埋没しているため、縄文時代と判断した。

## SK100（第79図／PL 10）

**位置** 2-94区H-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。  
**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸180cm、短軸144cm、深さ97cm。 **主軸方位** N-73°-E  
**壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** 繩文土器は出土していないが、  
 SIO4・05など縄文時代の遺構の覆土と類似する覆土で埋没しているため、縄文時代と判断した。

## SK134（第80図／PL 11）

**位置** 4-3区S-12 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。  
**平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸78cm、短軸71cm、深さ73cm。 **主軸方位** N-30°-E  
**壁面** 袋状に中位が狹まる。 **底面** 中央に向かって傾斜する。 **遺物** 繩文土器片が3点出土したが、  
 小破片のため図示しなかった。 **備考** 出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。

## SK135（第80図／PL 11）

**位置** 2-94区I-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 暗灰黄色土が基調で、人為堆積を示す。  
**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸142cm、短軸110cm、深さ27cm。 **主軸方位** N-40°-W  
**壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。  
**備考** 繩文土器は出土していないが、SIO4・05など縄文時代の遺構の覆土と類似する覆土で埋没しているため、縄文時代と判断した。

## SK136（第80・81図／第24表／PL 11・18）

**位置** 4-4区D-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。  
**平面形と規模** 円形を呈する。長軸60cm、短軸58cm、深さ12cm。 **主軸方位** N-83°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。  
**底面** 概ね平坦。 **遺物** 中期（勝坂式）と考えられる縄文土器が、覆土上部で横置状態で出土した。大小の破片25点のうち、状態の良い1点を図示した。 **備考** 出土遺物から、縄文時代中期に帰属すると考えられる。

## SK146（第80図）

**位置** 4-3区T-16 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。  
**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸94cm、短軸70cm、深さ27cm。 **主軸方位** N-24°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。  
**底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片2点が出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** 出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。

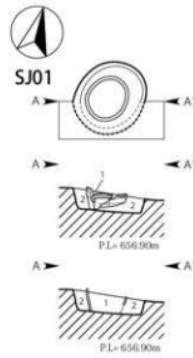
## (3) 埋甕

## 1号埋甕（SJ01）（第82・83図／第24表／PL 11・18）

**位置** 2-94区H-20 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黑褐色土が基調で、人為堆積を示す。  
**平面形と規模** 円形を呈する。長軸推定49cm、短軸推定45cm、深さ14cm。 **主軸方位** N-35°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。  
**底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器1点が正置状態で出土し、図示した。 **備考** 出土遺物から、縄文時代に帰属すると考えられる。



第81図 縄文時代土坑出土  
遺物実測図(1/4)



SJ01 土器説明  
AA':  
 1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。  
 2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。  
 0 1.30 1m  
PL=656.90m

第82図 SJ01実測図(1/30)

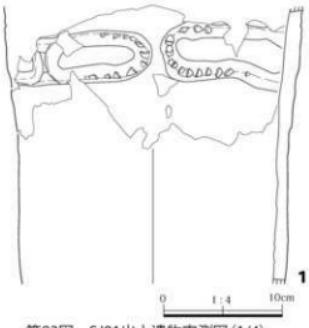
#### (4) 遺物集中

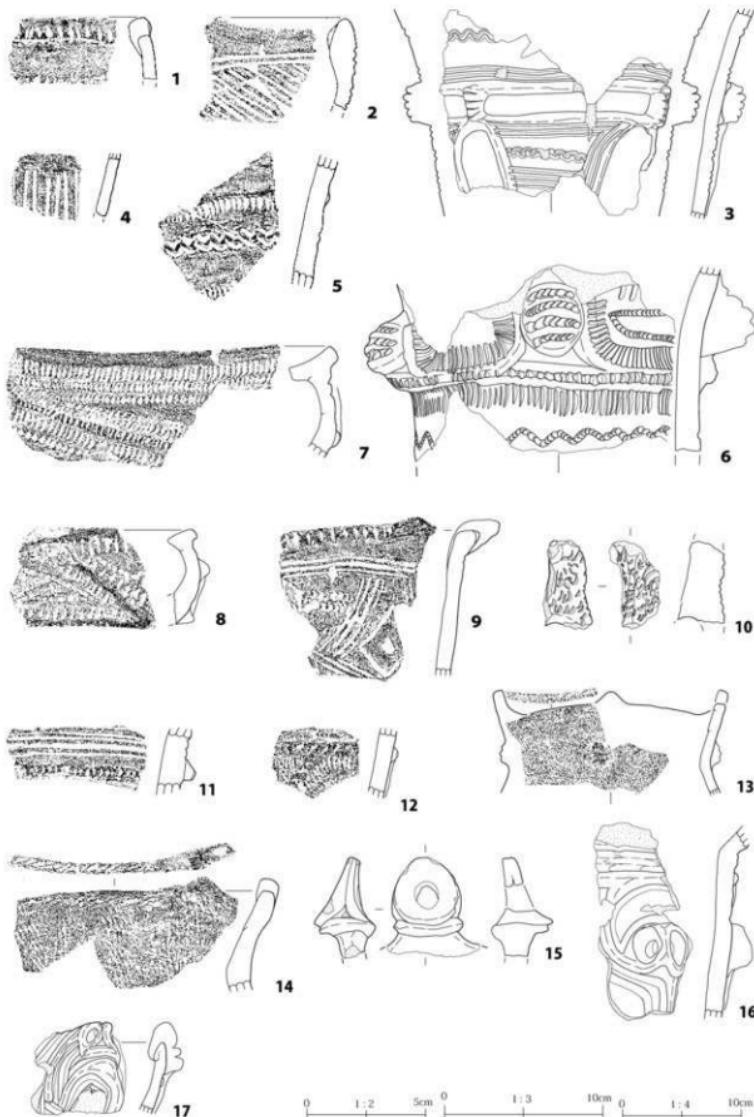
西側を1号遺物集中、東側を2号遺物集中とした。

##### 1号遺物集中 (SU01)

(第84・85図／第24表／PL 11・18・19)

**位置** 2-94区A・B-19・20 **重複関係** SK106と重複し、本遺構の方が古い。 **規模** 幅3.2m、長さ5.6mの範囲である。 **遺物出土状況** 織文土器158点、土師器片13点、土師質土器の杯1点、須恵器片4点、陶磁器片3点、剝片3点が出土した。中でも状態の良い織文土器の深鉢17点を図示した。 **備考** 確認面での遺物出土範囲を住居範囲と仮定し、土層確認用の十字ベルトを設定して掘り下げたが、遺物の出土レベルは緩斜面の傾斜角に平行しており、確認面から数cm程度で遺物が出土しなくなった。また人為的な掘り込み・水平な床面、



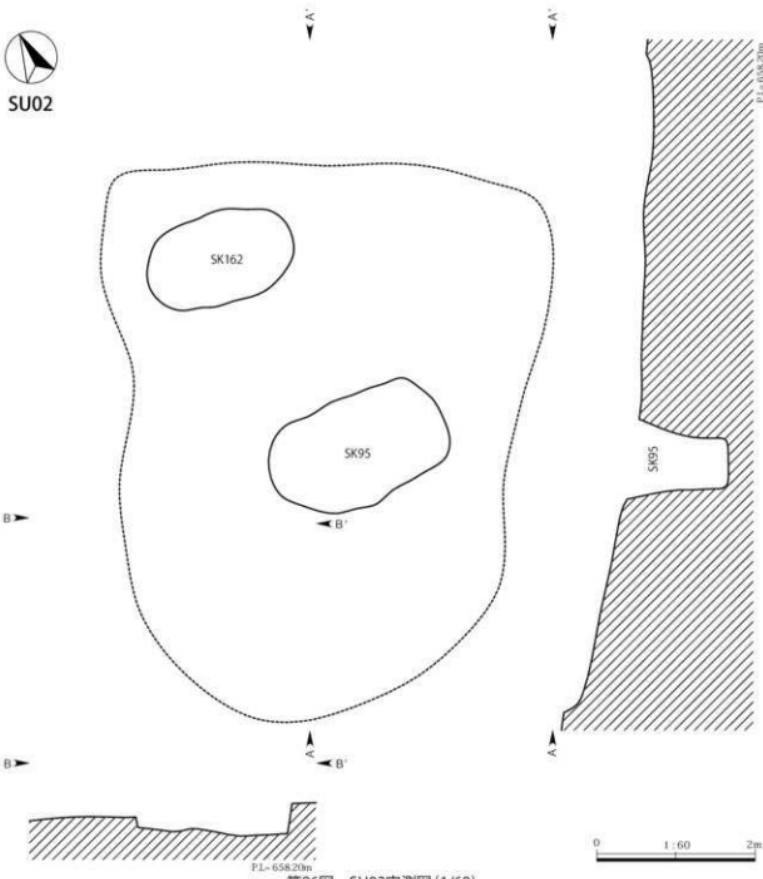


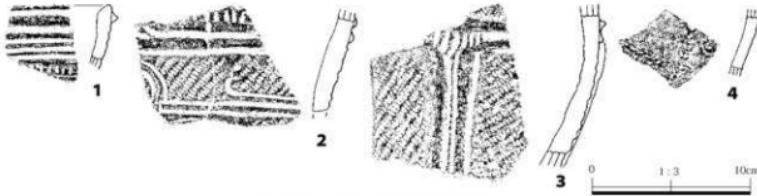
第85図 SU01出土遺物実測図(1/2・1/3・1/4)

柱穴・炉なども確認されなかつたため、住居跡ではなく、埋没谷の窪みに遺物が集中したものと考えられる。埋没谷は現代でも埋没しきっておらず、縄文土器と剥片以外は後世の混入物と考えられる。

## 2号遺物集中(SU02) (第86・87図／第24表／PL 19)

**位置** 2-94区D-E-19・20 **重複関係** SK95・162と重複し、本遺構の方が古い。 **規模** 幅4.9m、長さ7.1mの範囲である。 **遺物出土状況** 縄文土器52点、剥片3点が出土した。状態の良い縄文土器の深鉢4点を図示した。 **備考** 試掘50号トレンチで竪穴住居跡と推定された箇所であったため、確認面での遺物出土範囲を住居範囲と仮定して、土層確認用の十字ベルトを設定し掘り下げたが、確認面から数cm程度で遺物が出土しなくなった。また人為的な掘り込み・水平な床面・柱穴・炉なども確認されなかつたため、住居跡ではなく、窪地に遺物が集中したものと考えられる。





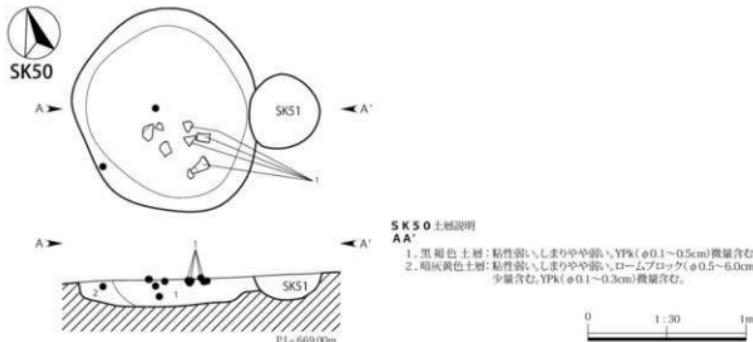
第87図 SU02出土遺物実測図(1/3)

### 第3節 弥生時代の遺構と遺物

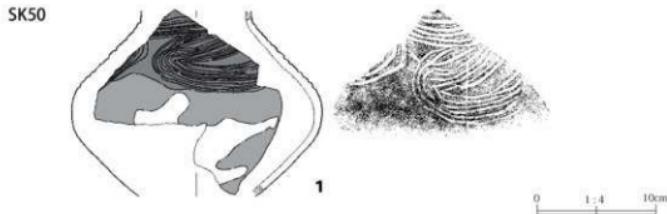
#### (1) 土坑

SK50 (第88・89図／第24表／PL 11・19)

**位置** 4-3区J-16 **重複関係** SK51と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸128cm、短軸112cm、深さ16cm。 **主軸方位** N-16°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 弥生土器の壺3点、混入と考えられる器種不明の土器片10点、石器・石製品5点が出土し、弥生初期と考えられる壺形土器1点を図示した。 **備考** 出土遺物から、帰属時期は弥生時代初頭と考えられる。



第88図 SK50実測図(1/30)



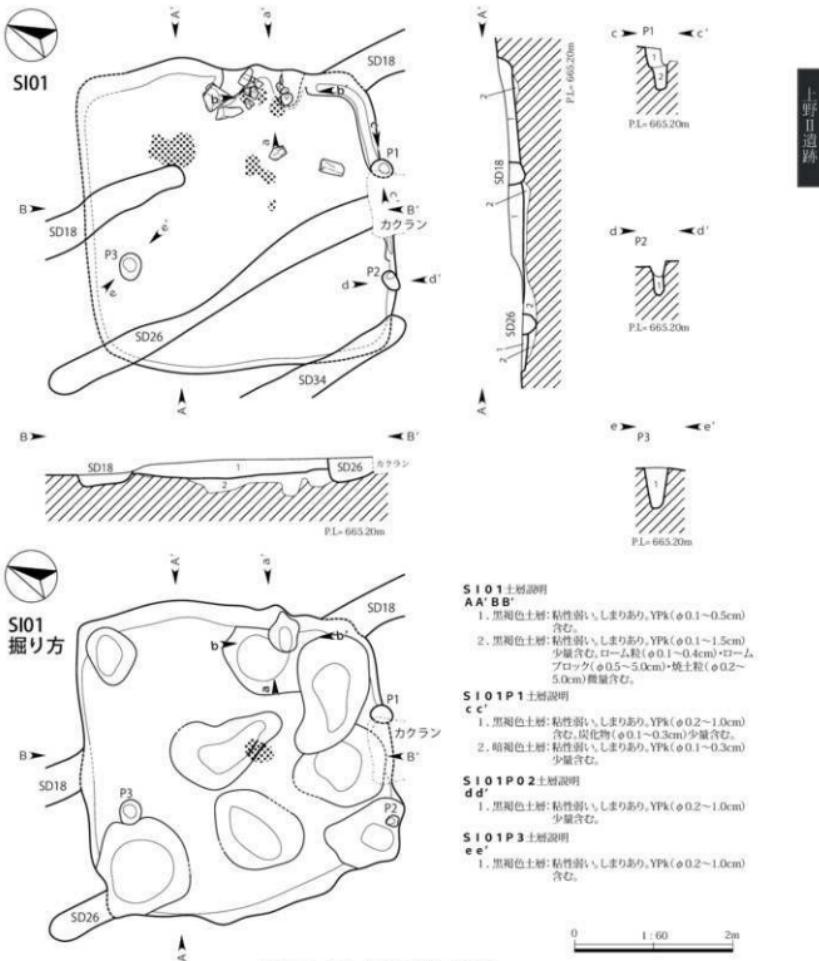
第89図 弥生時代土坑出土遺物実測図(1/4)

#### 第4節 平安時代の遺構と遺物

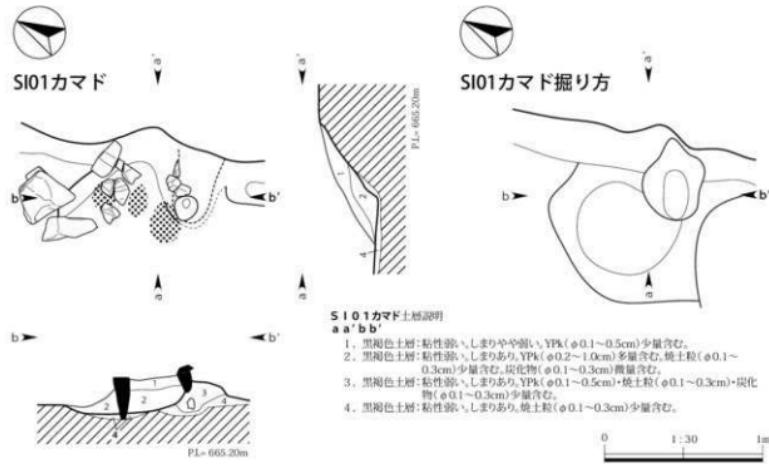
### (1) 穩穴住居跡

SI01 (第 90 ~ 93 図 / 第 15・23・24 表 / PL. 11・12・19)

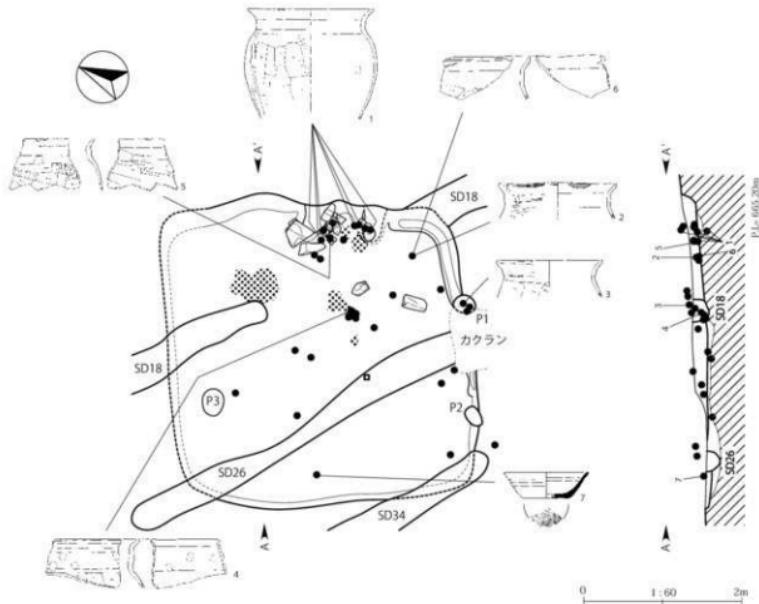
**位置** 4-3 区 R-12 重複関係 SD18・26・34 と重複し、本道構の方が古い。 **遺存状態** 北壁はほとんどが削平され現存しない。 **覆土** 黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 開丸方形を呈



第90図 SI01・掘り方実測図(1/60)



第91図 SI01カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



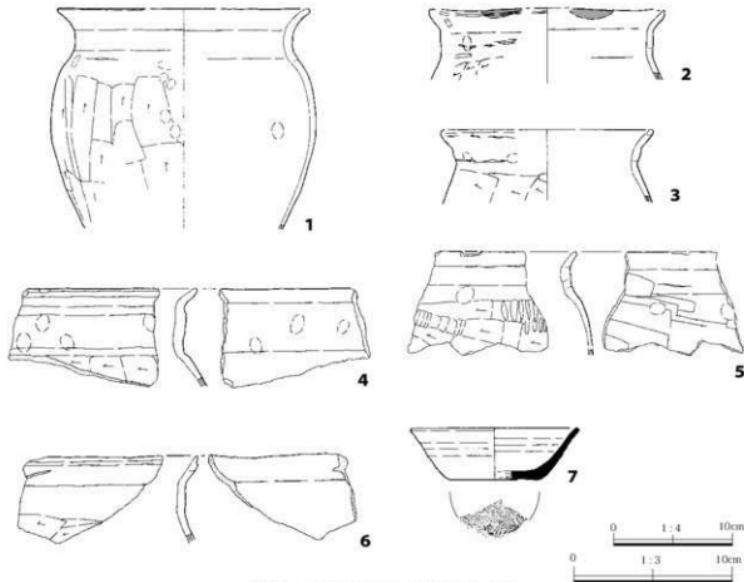
第92図 SI01遺物出土状況図(1/60)

する。規模は主軸 3.99 m、副軸推定 3.86m、深さ 18cm、床面積 12.02m<sup>2</sup>。 **主軸方位** N-67°-E **壁・壁溝** 壁高は南壁 10cm、西壁 4cm、東壁 16cm。壁溝は南東の一部でのみ確認された。溝幅は 20~30cm、深さは 5cm。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。 **柱穴** P1~P3 を検出した。平面形は橢円形で、いずれも規模は小さい。それぞれの規模は第 15 表に記した。 **カマド** 東壁中央に位置する。全長 77cm、最大幅 82cm。火床面は 3cm 剥ぎ込まれ、焼土部分は 2cm の厚さを有する。支持材として使用されたと見られる切石・自然石が散乱している。

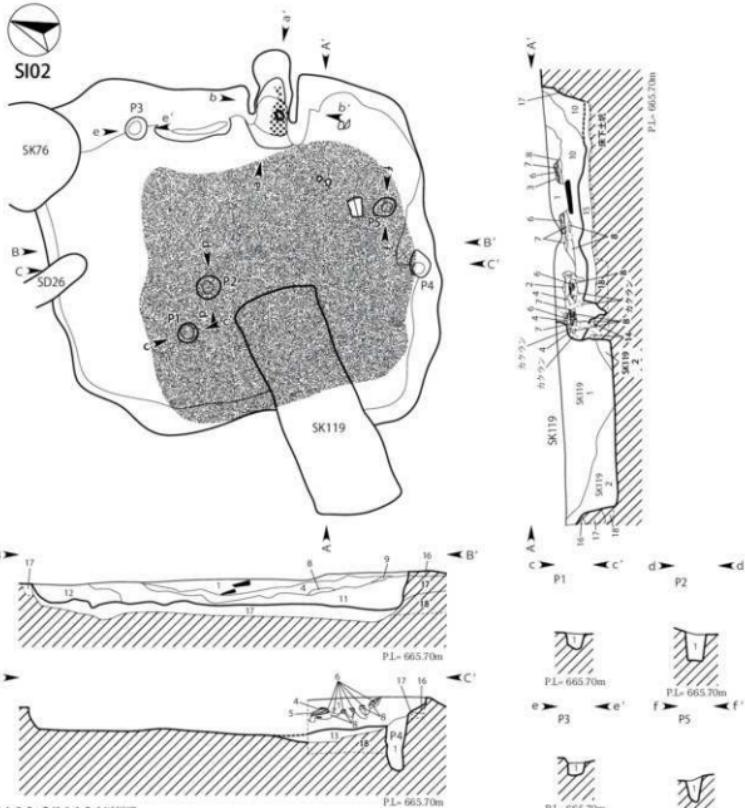
**その他の施設** 確認されなかった。  
**遺物出土状況** 土師器甕 255 点、須恵器杯 3 点、陶磁器片 1 点、不明鉄製品 1 点が出土した。  
**遺物** コの字状口縁甕を含む土師器甕 6 点と須恵器杯 1 点を図示した。  
**備考** 本遺構は小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

## SI02 (第 94 ~ 98 図 / 第 16・23・24 表 / P L 12・14・19)

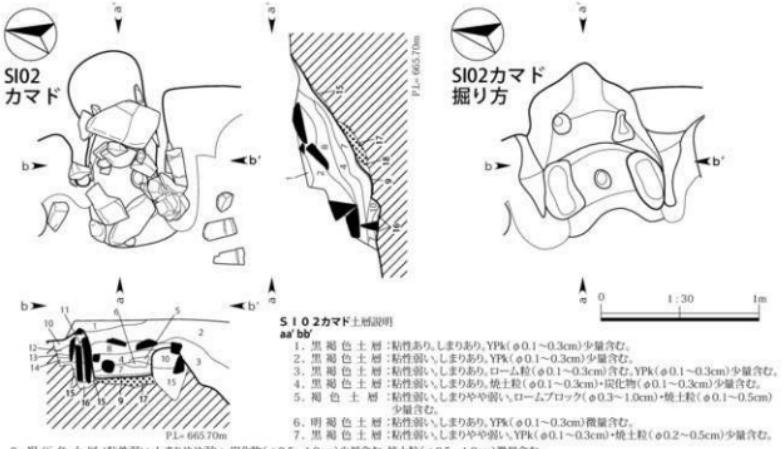
**位置** 4-3 区 T-14 重複関係 SK76・119, SD26 と重複し、本遺構の方が古い。  
**覆土** 黒褐色土が基調で、上層にはテフラが堆積する。テフラは 3 層に大別され、As-B (1108 年)、As-KK (1128 年)、仮称上野火山灰 (第 9 編第 1 章参照) と推定される。人為堆積を示す。  
**平面形と規模** 橢円長方形を呈する。規模は主軸 4.56 m、副軸 4.88 m、深さ 50cm、床面積 16.72m<sup>2</sup>。  
**壁・壁溝** 北壁 19cm、南壁 43cm、西壁 57cm、東壁 56cm。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。  
**床面** 直床式である。東側の一部で踏み締りが確認された。  
**柱穴** P1~P5 を検出した。平面形は円形・橢円形が主体である。それぞれの規模は第 16 表に記した。  
**カマド** 東壁中央やや南寄りに位置する。全長



第 93 図 SI01 出土遺物実測図 (1/3・1/4)



第94図 SI02-SK119実測図(1/60)



8. 浅黄色 土 带: 植物稀少、しまりやや弱、風化度約0.5~1.0cm<sup>3</sup>少量化<sup>2</sup>、燒土粒(φ 0.5~1.0cm)微量含む。  
8. 浅黄色 土 带: 磷酸溶出試験: ロームブロック(φ 0.5~2.0cm)・ロームブロック(φ 0.5~2.0cm)・1枚土ブロック(φ 1.0~3.0cm)含む。

9. 黑色 土 带: 植物稀少、しまりやや弱、ローム(φ 0.5~1.0cm)少量化<sup>2</sup>、燒土粒(φ 0.5~1.0cm)微量含む。  
9. 黑色 土 带: 磷酸溶出試験: ローム(φ 0.5~1.0cm)少量化<sup>2</sup>、燒土粒(φ 0.5~1.0cm)微量含む。

10. 黑色 土 带: 植物稀少、しまりやや弱、YPK(φ 0.1~0.5cm)微量含む。

10. 黑色 土 带: 磷酸溶出試験: YPK(φ 0.1~0.5cm)微量含む。

11. 黑色 土 带: 植物稀少、しまりやや弱、YPK(φ 0.1~0.5cm)微量含む。

11. 黑色 土 带: 磷酸溶出試験: YPK(φ 0.1~0.5cm)微量含む。

12. 浅黄色 土 带: 植物稀少、しまりや、4種<sup>3</sup>ブロック(φ 0.3~0.5cm)含む。

13. 黑色 土 带: 植物稀少、しまりや、YPK(φ 0.1cm)微量含む。

14. 浅黄色 土 带: 植物稀少、しまりや、4種<sup>3</sup>ブロック(φ 0.05~0.1cm)含む。

14. 浅黄色 土 带: 磷酸溶出試験: しまりや、4種<sup>3</sup>ブロック(φ 0.05~0.1cm)含む。

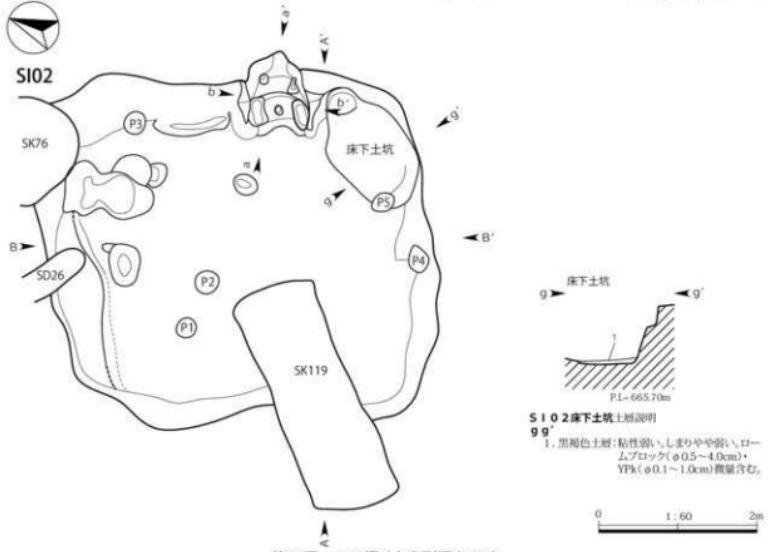
15. 黑色 土 带: 植物稀少、しまりやや弱、ローム(φ 0.05~0.2cm)含む、ロームブロック(φ 0.5~1.5cm)・燒土粒(φ 0.05~0.1cm)少量化<sup>2</sup>含む。

15. 黑色 土 带: 磷酸溶出試験: しまりやや弱、ローム(φ 0.05~0.2cm)含む、ロームブロック(φ 0.5~1.0cm)少量化<sup>2</sup>含む、燒土粒(φ 0.05~0.1cm)微量含む。

16. 赤色 土 带: 烧土粒(φ 0.05~0.1cm)少量化<sup>2</sup>含む。

16. 赤色 土 带: 磷酸溶出試験: しまりやや強、黒色ブロック(φ 0.30cm)含む。

第95図 SiO<sub>2</sub>カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第96図 SiO<sub>2</sub>掘り方実測図(1/60)

123cm、最大幅84cm。火床面は3cm掘り込まれ、焼土部分は2cmの厚さを有する。遺存状態は良好で、天井部が崩落せず残っていた。

**その他の施設** カマドの南側に長軸170cm、短軸91cm、深さ6cmの楕円形の土坑が確認された。床面から掘り込まれており、住居に伴う床下土坑と考えられる。

**遺物** 土師器杯3点、須恵器の羽釜1点、灰釉陶器の皿1点、磨石1点などが出土した。

**遺物出土状況** 土師器甕3点、土師器杯8点、須恵器の羽釜2点、器種不明の須恵器片2点、灰釉陶器の皿1点、磨石1点などが出土した。

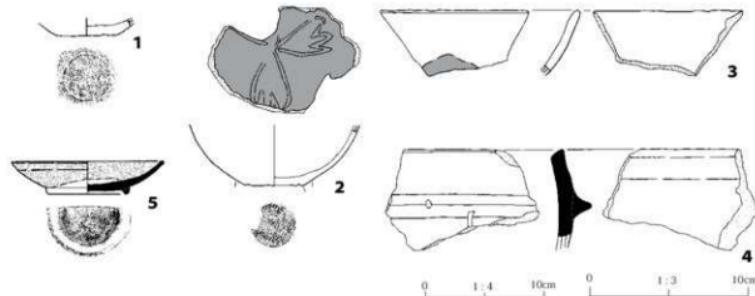
**備考** 本遺構は中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から10世紀前半と推定される。

第16表 SI02 ピット計測表

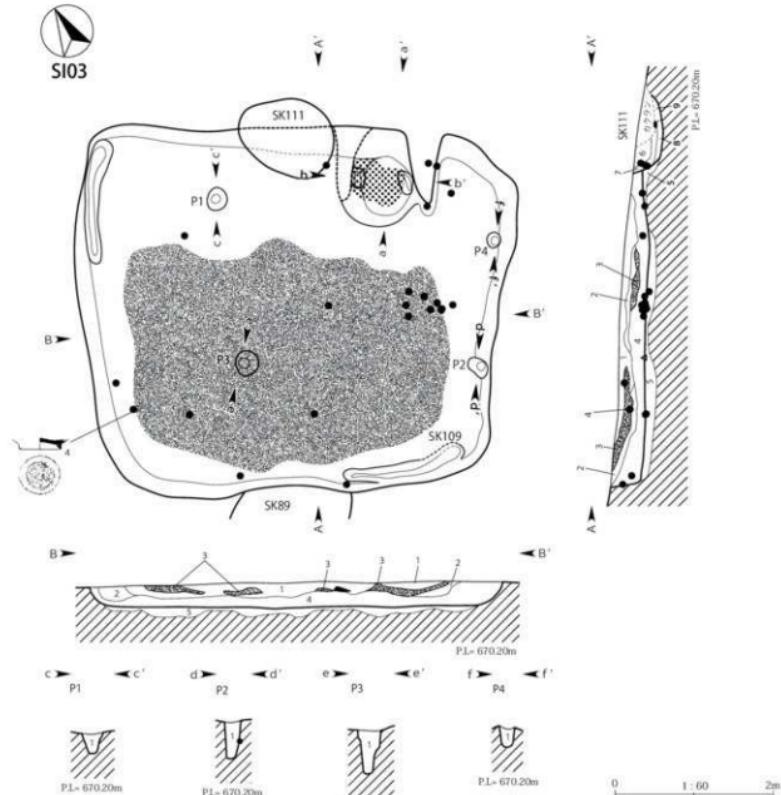
	P1	P2	P3	P4	P5	床下土坑
長軸長(cm)	25	29	28	27	28	170
短軸長(cm)	25	28	28	26	23	91
深さ(cm)	19	32	14	64	29	6

**第97図 SI02遺物出土状況図(1/60)**

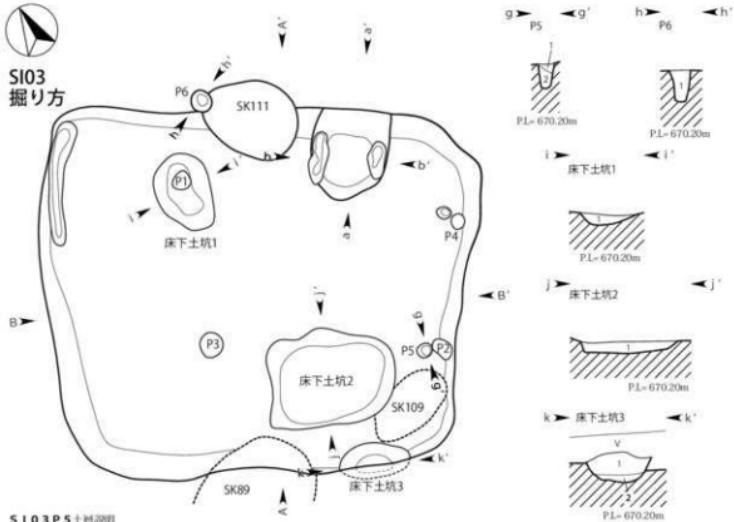
第97図 SI02遺物出土状況図(1/60)



第98図 SI02出土遺物実測図(1/3・1/4)



第99図 S103実測図・遺物出土状況図(1/60)



## SI03 P5 土層説明

99'

1. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、YPk ( $\phi 0.1 \sim 0.3cm$ ) 少量含む。2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック ( $\phi 0.2 \sim 1.0cm$ ) 少量含む。

## SI03 P6 土層説明

h'h'

1. 順次黄色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒 ( $\phi 0.1 \sim 0.4cm$ )・ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 3.0cm$ ) 少量含む、YPk ( $\phi 0.1 \sim 0.5cm$ ) 敏量含む。

## SI03 床下土坑1 土層説明

i'i'

1. 順次黄色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒 ( $\phi 0.1 \sim 0.4cm$ )・ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 5.0cm$ ) 少量含む、YPk ( $\phi 0.1 \sim 0.5cm$ ) 敏量含む。

## SI03 床下土坑2 土層説明

j'j'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック ( $\phi 0.5 \sim 3.0cm$ ) 多量含む。

## SI03 床下土坑3 土層説明

k'k'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、YPk ( $\phi 0.1 \sim 1.0cm$ ) 敏量含む。2. 順次黄色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、YPk ( $\phi 0.1 \sim 1.0cm$ ) 敏量含む。

第100図 SI03掘り方実測図(1/60)

SI03 (第99 ~ 102図 / 第17・23・24表 / PL 13・14・20)

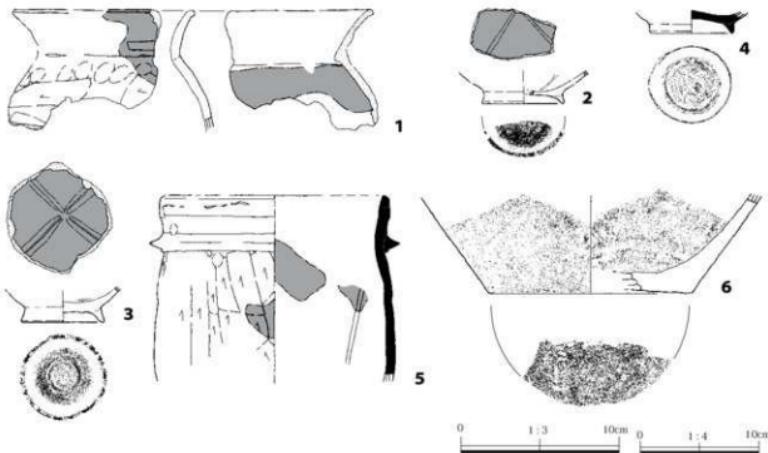
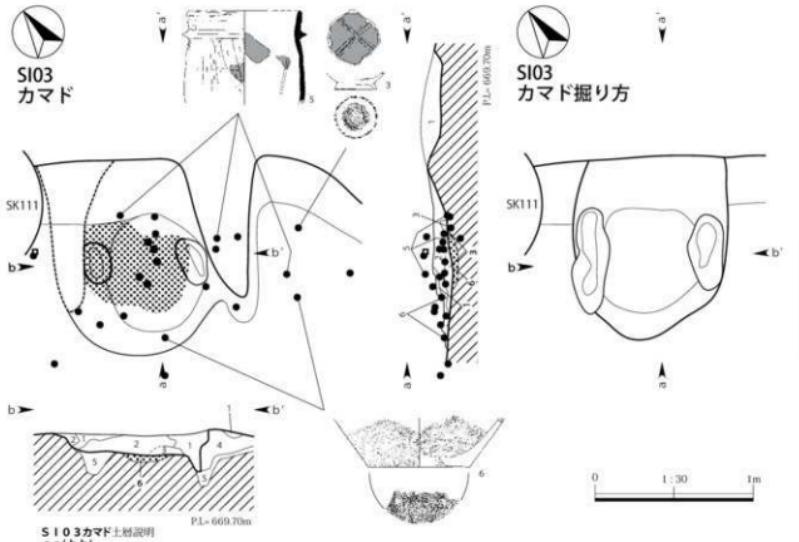
位置 4-3区M-18 重複関係 SK89・109・111と重複し、SK111より古く、SK89・109より新しい。

遺存状態 概ね良好。覆土 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。平面形と規模 四角形を呈する。

規模は主軸4.62m、副軸5.60m、深さ31cm、床面積20.03m<sup>2</sup>。主軸方位 N-28°-E 壁・壁溝 北壁7cm、南壁26cm、西壁20cm、東壁26cm。壁溝は南西壁と北西壁の一部で確認された。溝幅は20cm、深さは5cm。床面 直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかった。柱穴 P1~P6を検出した。平面形は円形・橢円形主体。それぞれの規模は第17表に記した。力マド 北壁中央東寄りに位置し、上層が削平されている。全長148cm、最大幅97cm。火床面は4cm掘り込まれ、焼土部分は4cmの厚さを有する。周

第17表 SI03 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	床下土坑1	床下土坑2	床下土坑3
長軸長(cm)	28	37	32	18	20	27	101	157	(27)
短軸長(cm)	24	18	29	16	18	26	81	122	88
深さ(cm)	23	44	54	22	29	38	13	14	36

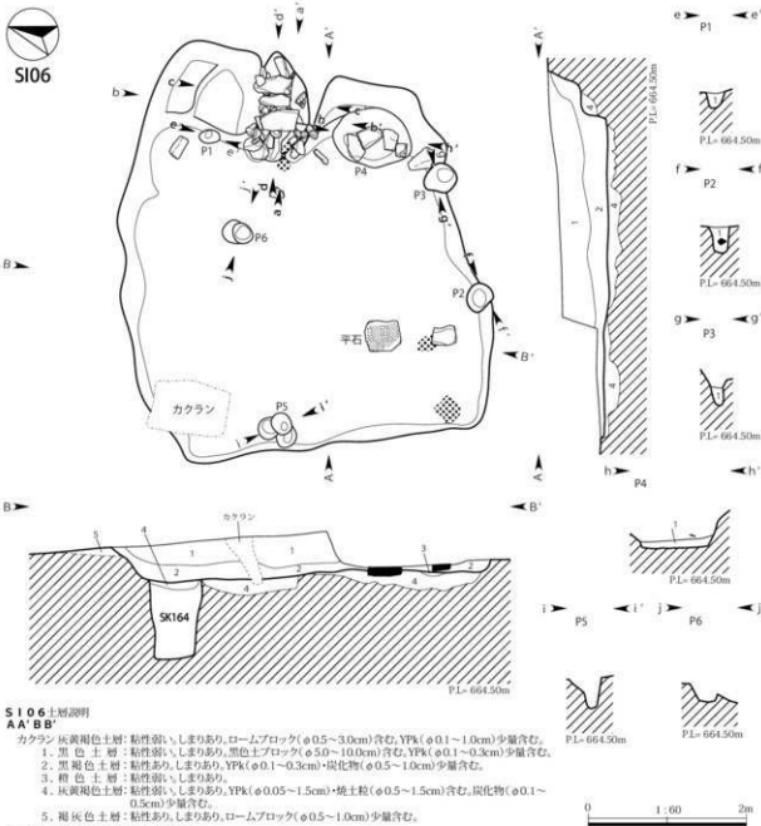


辺に支持材と見られる石材が散乱し、東側には袖部が残存していた。 **その他の施設** 床下土坑3基が確認された。平面形や規模などは17表に記載した。**遺物出土状況** 土師器甕17点、土師器杯4点、須恵器甕14点、須恵器杯2点、須恵器の羽釜2点、陶器の甕6点、灰釉陶器片7点などが出土した。**遺物** 土師器甕1点、土師器杯2点、須恵器杯1点、須恵器の羽釜1点、陶器の甕1点を図示した。**備考** 本遺構は中型の堅穴住居跡である。覆土はSiO2と同じく、As-Kkが堆積している。1軒だけ、他の3軒と離れた台地上に立地する。帰属時期は、出土遺物から10世紀前半と推定される。

SI06(第103~109図/第18・23・24表/PL 13・14・20)

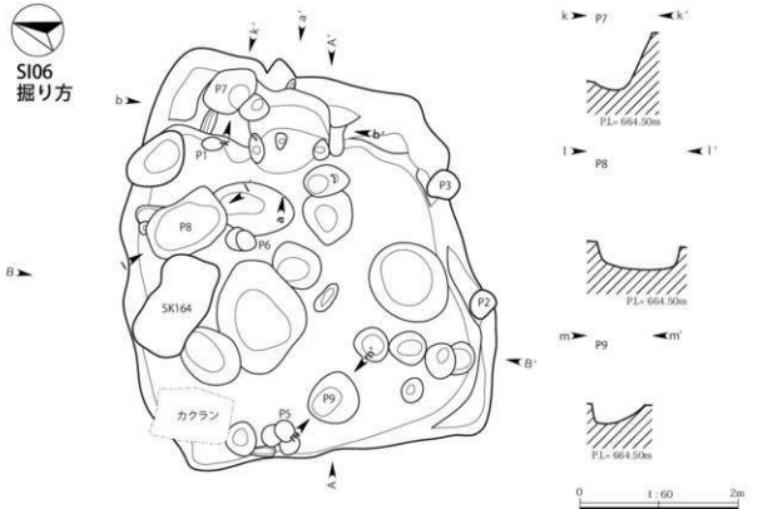
位置 4-3区Q-13 重複関係 SK164と重複し、本遺構の方が新しい。 遺存状態 概ね良好。 覆

上野遺跡



第103図 SI06実測図(1/60)

SI06  
掘り方



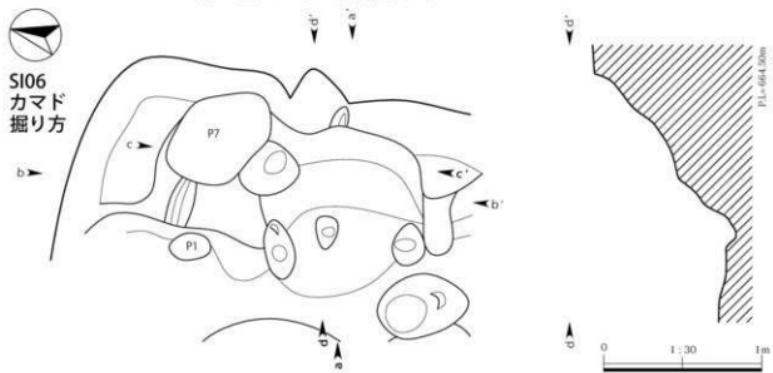
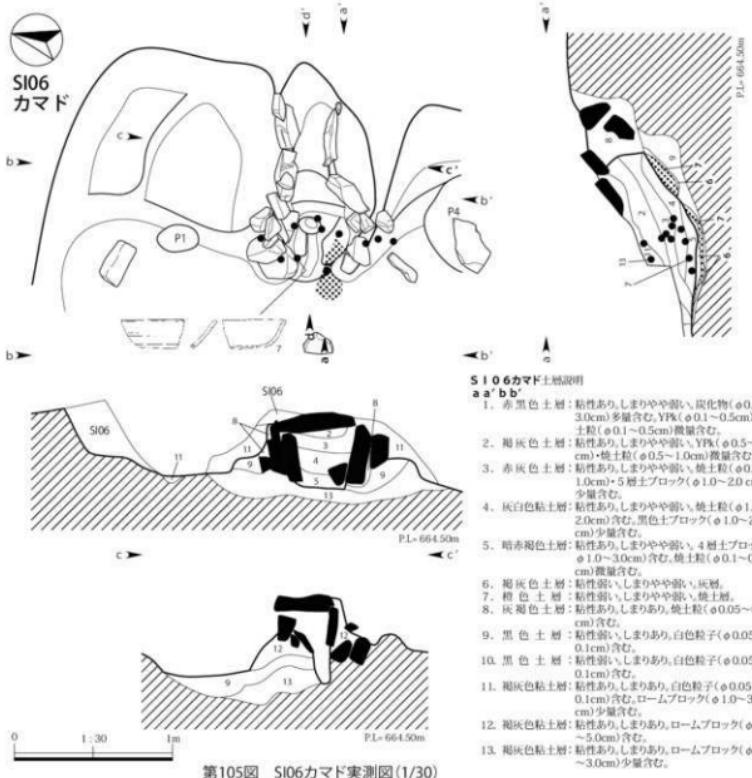
第104図 SI06掘り方実測図(1/60)

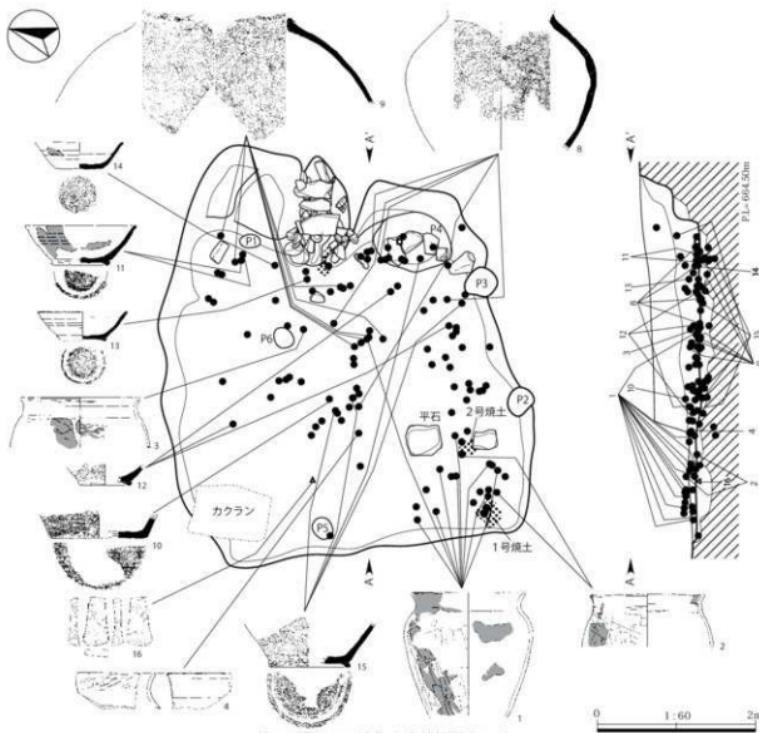
**土** 黒色～黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。 **平面形と規模** 圆丸方形を呈する。規模は主軸 5.26 m、副軸 4.58 m、深さ 68 cm。 **主軸方位** N-65°-E 壁・壁溝 北壁 41cm、南壁 14cm、西壁 4cm、東壁 69cm。南西側は上部が削平されているため、壁の立ち上がりはほとんど残っていないかった。壁溝は見られなかつた。東壁は直立する壁とはならず、段差がある。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは見られなかつた。

**柱穴** 床上で P1～3、掘り方で P5・6 を検出した。深さや配置から P2・3・5・6 は柱穴と考えられる。P6 では底面に柱アタリが見られた。それぞれの規模は第18表に記した。 **カマド** 東壁中央に位置する。全長 137cm、最大幅 98cm、火床面は 3cm 剥ぎ込まれ、焼上部分は 4cm の厚さを有する。残存状況は良好で、天井石を含む支持材が残っていた。 **その他の施設** カマドの脇で楕円形の土坑 (P4) が検出された。床面から掘り込まれており、住居に伴う貯蔵穴と考えられる。P7～9 は床下土坑である。 **遺物出土状況** コの字状口縁甕を含む土師器の甕・杯、須恵器の甕・杯・椀類を主体として、縄文土器片 1 点、土師器 497 点、羽釜を含む須恵器 112 点、土師質土器 4 点、灰釉陶器 1 点、砥石 1 点、チャートの石核 1 点、鉄製品・鉄滓 3 点が出土した。 **遺物** 土師器の甕 3 点、杯・台付甕各 1 点、須恵器の甕 3 点、椀 3 点、杯・鉢各 1 点、土師質土器の杯、砥石各 1 点を図示した。 **備考** 本遺構は中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半～10 世紀前半と推定される。

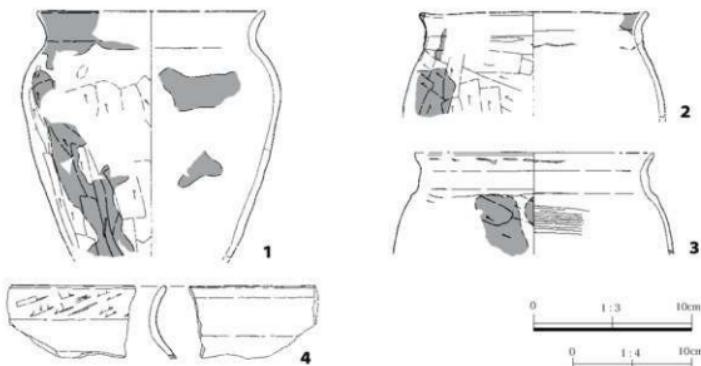
第18表 SI06 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
長軸長 (cm)	25	35	42	99	27	27	70	104	66
短軸長 (cm)	17	30	37	74	23	23	48	68	61
深さ (cm)	20	32	29	10	37	23	72	35	25

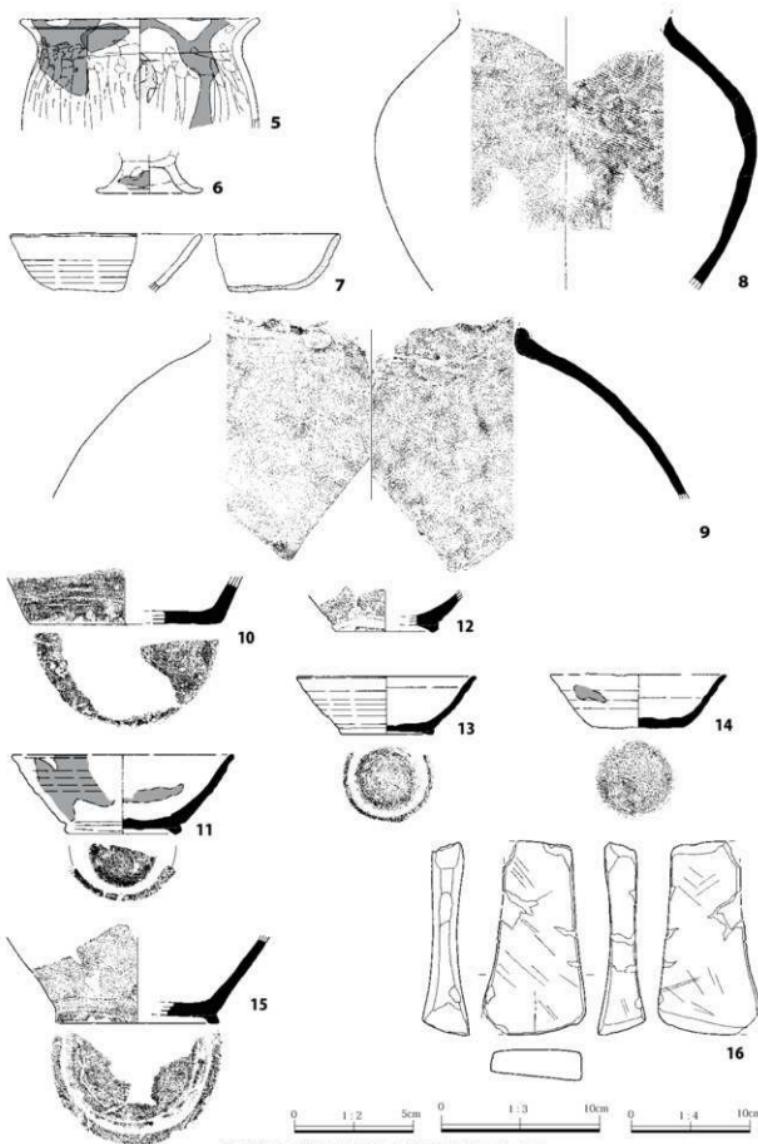




第107図 SI06遺物出土状況図(1/60)

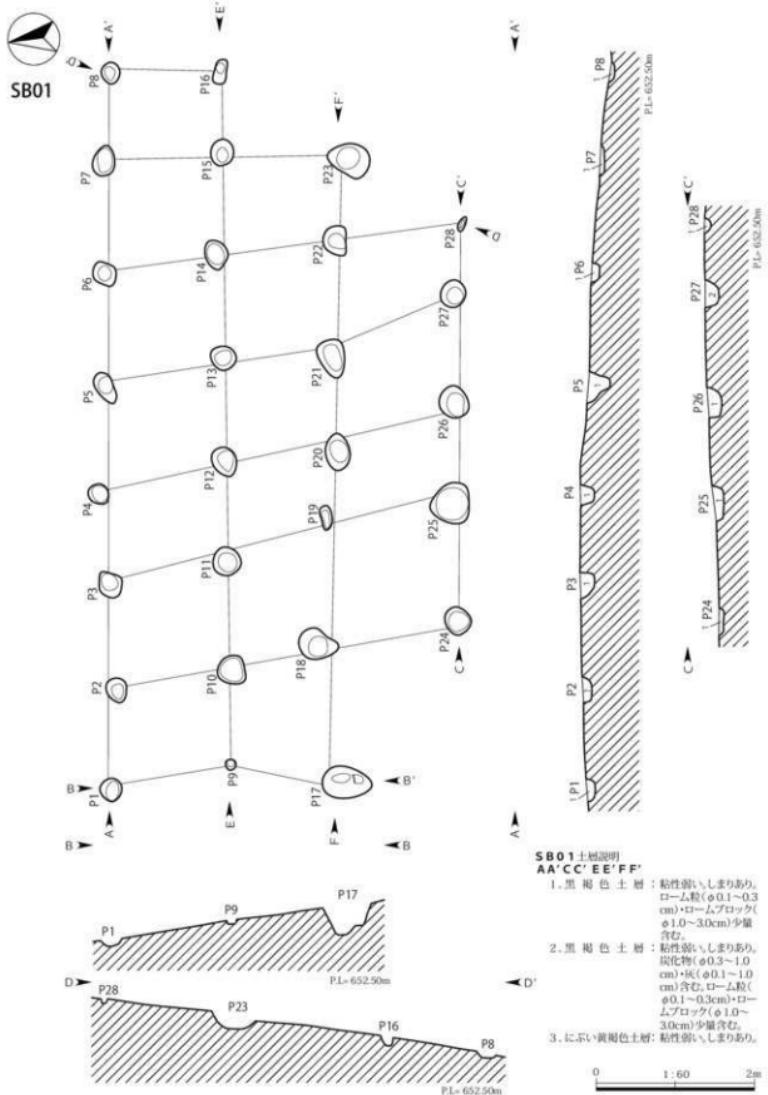


第108図 SI06出土遺物実測図①(1/3・1/4)

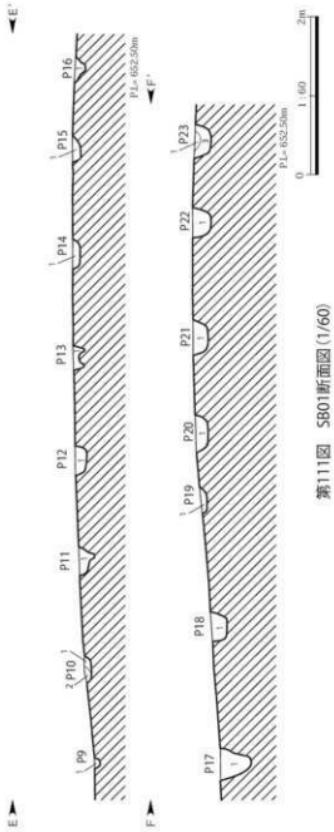


第109図 SI06出土遺物実測図③(1/2・1/3・1/4)

(2) 掘立柱建物跡



第110図 SB01実測図(1/60)



S801 (第 110・111 図／第 19 表／PL 14)

**位置** 2-94 区 C-12 重複関係なし。遺存状態  
いずれの柱穴も浅く、削平されている可能性がある。

**規模** 桁行 7 間(約 9.2 m) 梁間 3 間(約 5 m)、東西柱間  
0.9~1.52 m、南北柱間 1.14~1.8 m。**主軸方位** N-  
84°-W **概要** P1~P28までを柱穴とした。柱痕や柱  
アタリは見られない。規模については第 19 表に記載する。

**その他の施設** 確認されなかった。遺物出土状況なし。

**遺物** なし。 **備考** 南東部では柱穴が確認できなかつたが、7 間×3 間の総柱の掘立柱建物跡であると考えられる。出土遺物はないが、帰属時期は平安時代と考えられる。

### (3) カマド屋

SK122 (第 112・152 図／第 24 表／PL 14・20)

**位置** 4-3 区 O-8 重複関係 SN01 と重複し、本遺構の方が古い。遺存状態 良好。覆土 暗褐色～黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。平面形と規模 楕円形を呈する。規模は長軸推定 254cm、短軸 167cm、深さ 28cm。

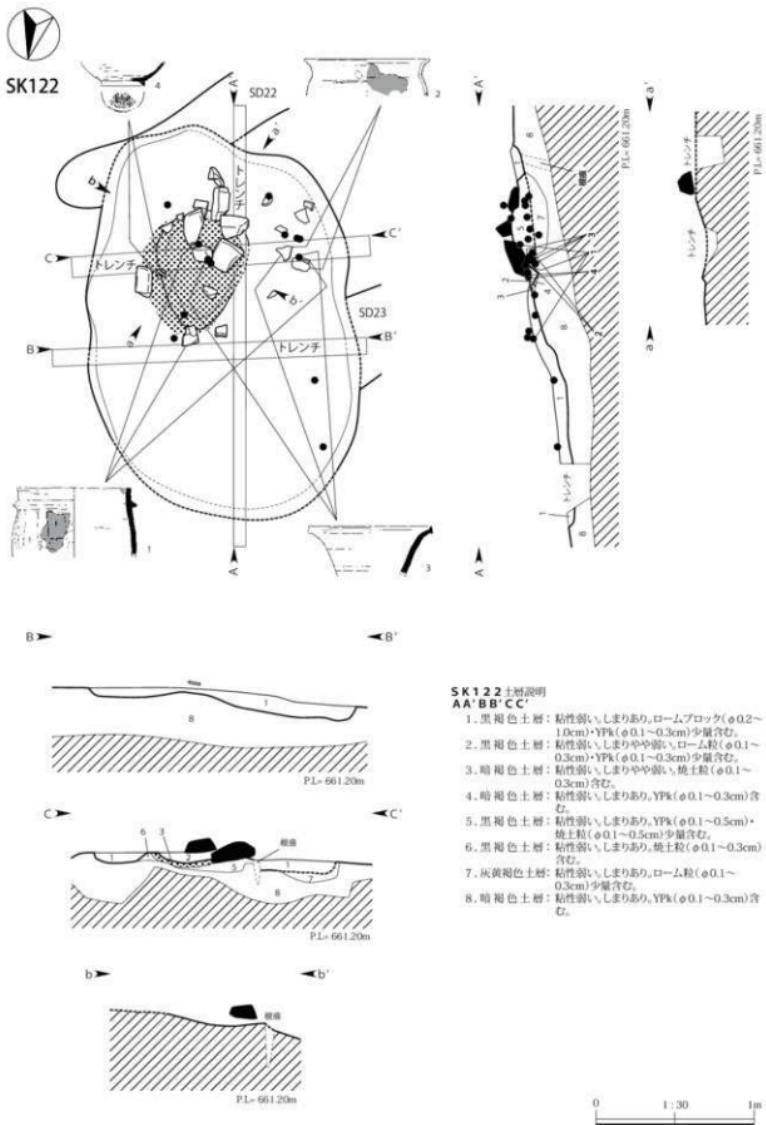
**主軸方位** N-157°-E **壁面・壁高** 北壁 4cm、南壁 4cm、西壁 10cm、東壁 3cm、外傾して立ち上がる。床面 凹凸がある。柱穴 確認されなかった。カマド 全長 25cm、最大幅 20cm、火床面はほとんど掘り込まれておらず、焼土部分は 1.5cm の厚さを有する。南寄りに位置し、周辺に支持材と見られる石材が散乱していた。 **その他の施設** 確認されなかった。遺物出土状況 繩文土器片 1 点、土師器甕 10 点、土師器椀 2 点、須恵器の羽釜 1 点、大甕 1 点、甕 3 点、椀 1 点、灰釉陶器の皿 1 点が出土した。

**遺物** 土師器甕 1 点、須恵器の羽釜 1 点、大甕 1 点、椀 1 点を示した。 **備考** 檜出段階で焼土と袖石と思われる構築部材が検出されたため、住居と想定して調査を行なったが、住居と認定できる大きさではなかったため、カマド屋として扱うこととした。帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半～10 世紀前半と考えられる。

S801断面図(1/60)  
第 111 図

第 19 表 S801 ピット計測表

	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
長軸長(cm)	30	30	35	27	40	35	40	26	13	40	36
短軸長(cm)	25	25	30	25	25	30	27	23	12	38	35
深さ(cm)	7	10	17	16	26	10	5	5	5	9	20
	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22
長軸長(cm)	36	32	35	35	30	62	50	32	45	48	40
短軸長(cm)	30	30	28	28	15	40	35	14	30	35	30
深さ(cm)	13	15	8	10	10	35	20	7	15	17	22
	P23	P24	P25	P26	P27	P28					
長軸長(cm)	55	35	50	42	34	18					
短軸長(cm)	38	30	41	35	32	10					
深さ(cm)	18	5	10	15	17	5					



### 第112図 SK122実測図(1/30)

#### (4) 陥し穴

上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する陥し穴は、平安時代に帰属すると考えられる。

##### SK06 (第 113 図)

**位置** 2-94 区 E-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 198cm、短軸 98cm、深さ 105cm。

**主軸方位** N-54°-W **壁面** 下位は YPK 層の崩落を防ぐためのロームと黒色土から成る貼壁が垂直に立ち上がり、上位は貼壁の段差を経て外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片が 4 点出土し、1 点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** なし。

##### SK07 (第 113 図)

**位置** 2-93 区 T-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 218cm、短軸 142cm、深さ 105cm。

**主軸方位** N-80°-E **壁面** 下位は貼壁が認められる。下位は垂直に立ち上がり、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

##### SK08 (第 113 図)

**位置** 2-93 区 S-17 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 180cm、短軸 124cm、深さ 112cm。

**主軸方位** N-11°-E **壁面** 下位は貼壁が認められる。下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。

**底面** 中央に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** なし。

##### SK09 (第 113 図)

**位置** 2-93 区 Q-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 310cm、短軸 138cm、深さ 130cm。

**主軸方位** N-31°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

##### SK10 (第 114 図)

**位置** 2-93 区 S-18 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 橢円形を呈する。規模は長軸 188cm、短軸 114cm、深さ 100cm。 **主軸方位** N-41°-E **壁面** 下位は垂直に、上位で段差を経て立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片 1 点と黒曜石の剥片 2 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** なし。

##### SK11 (第 114 図)

**位置** 2-94 区 A-19 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 196cm、短軸 120cm、深さ 106cm。

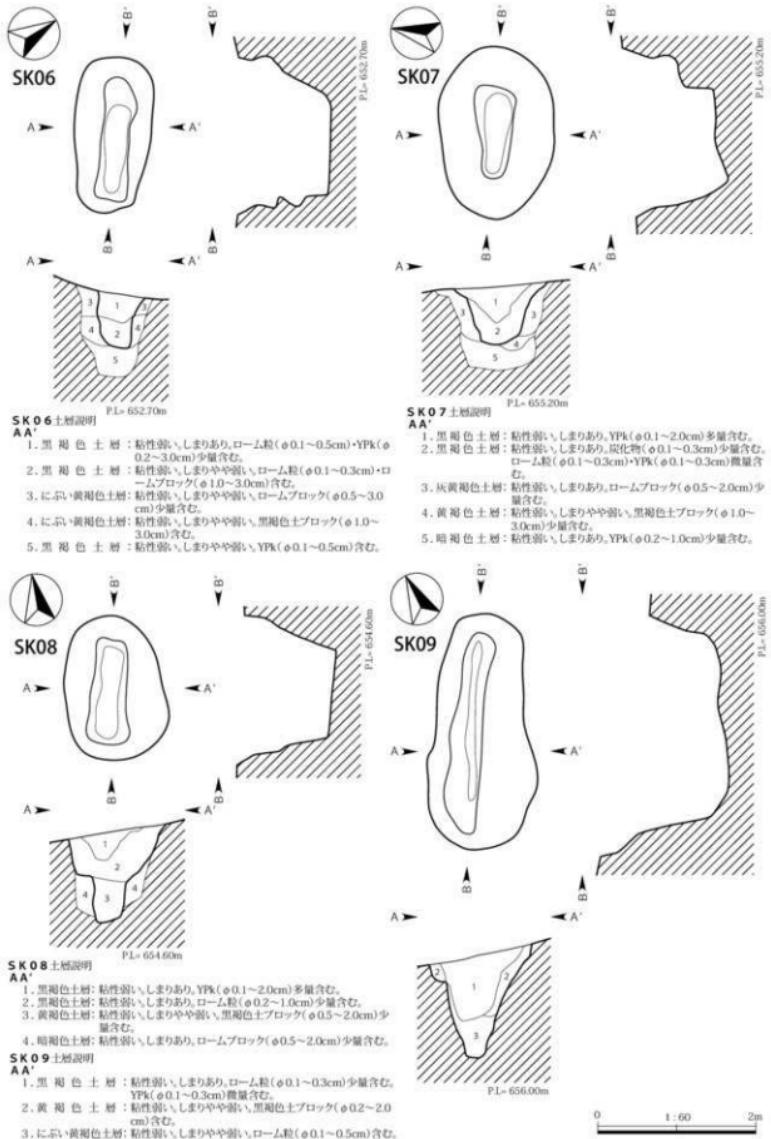
**主軸方位** N-61°-E **壁面** 下位は垂直に、上位で段差を経て外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

##### SK15 (第 114 図)

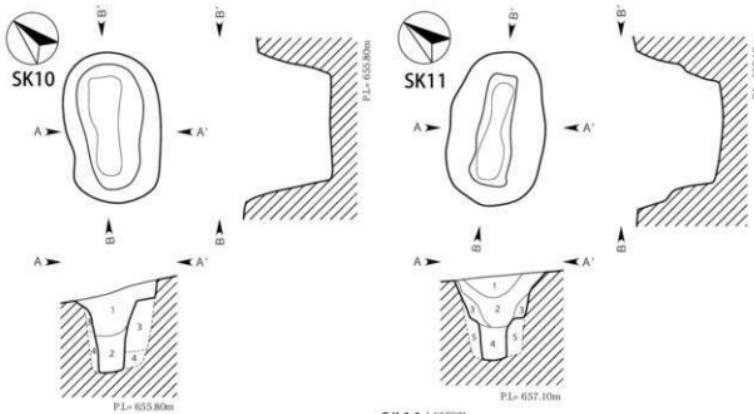
**位置** 2-94 区 E-13 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形が橢円形、下面形が長方形を呈する。規模は長軸 160cm、短軸 90cm、深さ 110cm。

**主軸方位** N-76°-W **壁面** 中位の段差を経て垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。

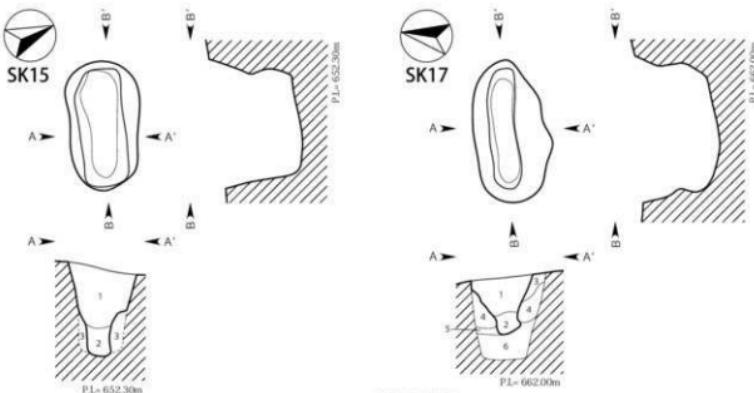


第113図 SK06~09実測図(1/60)



**SK11 土層説明 AA'**

1. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk( $\phi 0.1\sim 3.0cm$ )多量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック( $\phi 0.3\sim 2.0cm$ )・YPk( $\phi 0.1\sim 0.5cm$ )少量化含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック( $\phi 0.2\sim 1.0cm$ )少量化含む。
4. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒( $\phi 0.1\sim 0.3cm$ )少量化含む。
5. 明褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、YPk( $\phi 0.1\sim 0.5cm$ )含む。黒褐色土ブロック( $\phi 0.5\sim 2.0cm$ )少量化含む。



**SK17 土層説明 AA'**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、YPk( $\phi 0.1\sim 2.5cm$ )微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック( $\phi 0.5\sim 5.0cm$ )含む。
3. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック( $\phi 0.5\sim 5.0cm$ )少量化含む。
4. 黄褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック( $\phi 0.5\sim 6.0cm$ )多量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック( $\phi 0.5\sim 5.0cm$ )含む。
6. 暗褐色土層: 粘性弱い、しまりやや弱い、YPk( $\phi 0.1\sim 3.0cm$ )多量含む。砂礫( $\phi 0.1\sim 1.0cm$ )含む。



第114図 SK10・11・15・17実測図(1/60)

**備考** なし。

#### SK17 (第 114 図)

**位置** 4-3 区 S-6 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上面形は楕円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 180cm、短軸 88cm、深さ 90cm。

**主軸方位** N-78°-E **壁面** 下位は貼壁が認められる。外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片 1 点が出土し、図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** なし。

#### SK22 (第 115 図)

**位置** 4-4 区 E-6 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 175cm、短軸 127cm、深さ 104cm。 **主軸方位** N-43°-W **壁面** 下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

#### SK23 (第 115 図)

**位置** 4-4 区 A-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 上面形は不整椭円形、下面形は長方形を呈する。規模は長軸 147cm、短軸 110cm、深さ 96cm。

**主軸方位** N-18°-E **壁面** 中位の段差を経て外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片 1 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** なし。

#### SK24 (第 115 図)

**位置** 4-4 区 B-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸 225cm、短軸 125cm、深さ 150cm。 **主軸方位** N-4°-E **壁面** 中位で狭まり、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 北に向かって傾斜する。 **遺物** 繩文土器片 1 点が出土したが、小破片のため図示しなかった。 **備考** なし。

#### SK26 (第 115 図)

**位置** 4-3 区 S-8 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 長方形を呈する。規模は長軸 196cm、短軸 73cm、深さ 75cm。 **主軸方位** N-80°-W **壁面** 中位で狭まり、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

#### SK28 (第 116 図)

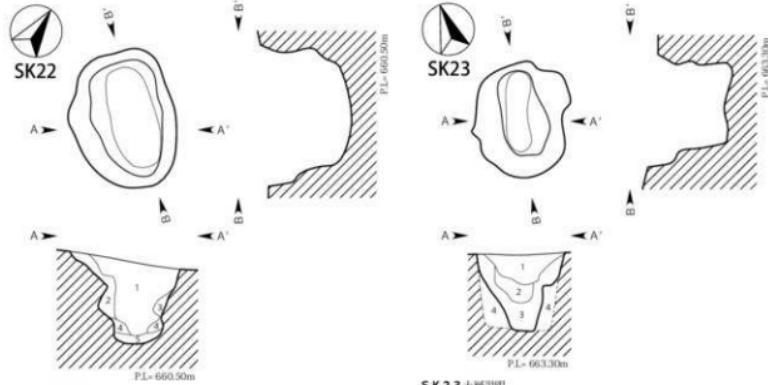
**位置** 4-3 区 S-6 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 刃丸長方形を呈する。規模は長軸 135cm、短軸 58cm、深さ 87cm。 **主軸方位** N-9°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** 繩文土器片 1 点が出土したが、出土状況から遺構に伴うものではないと判断し、図示しなかった。 **備考** なし。

#### SK29 (第 116 図)

**位置** 4-4 区 G-4 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 円形を呈する。規模は長軸 254cm、短軸 238cm、深さ 115cm。 **主軸方位** N-56°-W **壁面** 中位の段差を経て外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。



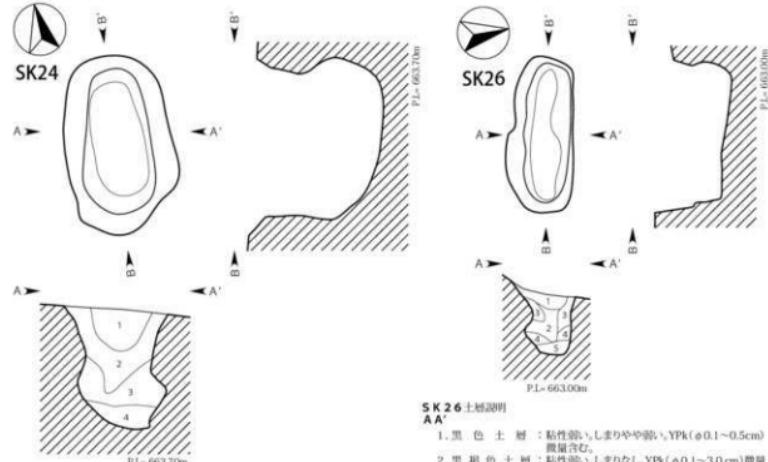
**SK22 土層説明 A-A'**

- 1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5~1.0cm)・YPk(φ0.2~1.0cm)微量含む。
- 2. 灰褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5~6.0cm)少量含む。
- 3. 黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い。
- 4. 黄褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5~5.0cm)多量含む。YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
- 5. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~1.0cm)少量含む。

**SK23 土層説明 A-A'**

- 1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~3.0cm)含む。
- 2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1~0.4cm)微量含む。
- 3. 暗灰褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ロームブロック(φ0.5~4.0cm)・YPk(φ0.1~1.0cm)微量含む。
- 4. 褐灰色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.3~1.0cm)・ロームブロック(φ0.5~3.0cm)含む。

PL= 660.50m PL= 663.30m



**SK24 土層説明 A-A'**

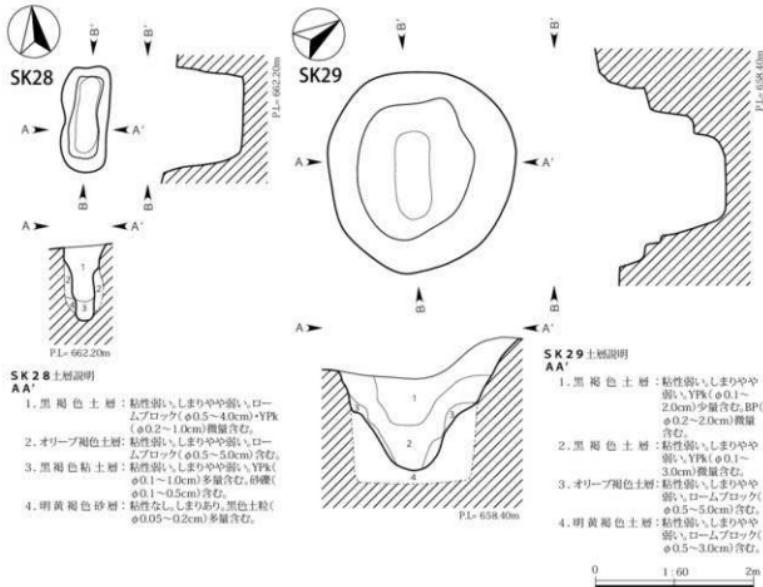
- 1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、YPk(φ0.1~3.0cm)少量含む。
- 2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、BP(φ0.2~2.0cm)微量含む。
- 3. 黄褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック(φ0.5~10.0cm)多量含む。
- 4. 黑褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。

**SK26 土層説明 A-A'**

- 1. 黒色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~0.5cm)微量含む。
- 2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりやや弱い、ローム粒(φ0.1~0.4cm)微量含む。
- 3. 黑褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック(φ0.5~6.0cm)含む。
- 4. にぶい黒褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック(φ0.5~5.0cm)多量含む。
- 5. 褐褐色粘土層：粘性弱い、しまりやや弱い、YPk(φ0.1~1.0cm)微量含む。



第115図 SK22~24・26実測図(1/60)



第116図 SK28・29実測図(1/60)

## SK30 (第117図)

**位置** 4-4区E-7 **重複関係** SK31と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 上位は円形、下位は楕円形を呈する。規模は長軸145cm、短軸136cm以上、深さ103cm。 **主軸方位** N-16°-E **壁面** 下位は貼壁が認められる。下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

## SK32 (第117図)

**位置** 2-94区F-12 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 椭丸長方形を呈する。規模は長軸188cm、短軸112cm、深さ93cm。 **主軸方位** N-71°-W **壁面** 下位は貼壁が認められる。下位は垂直に、上位は外傾して立ち上がる。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

## SK33 (第117図)

**位置** 4-4区B-7 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 楕円形を呈する。規模は長軸250cm、短軸160cm、深さ120cm。 **主軸方位** N-73°-E **壁面** 階段状に立ち上がる。 **底面** 極ね平坦。 **遺物** なし。 **備考** なし。

## SK34 (第117図)

**位置** 4-4区C-9 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。